



1. 『きんのオノ ぎんのオノ』

詞・曲：しかの てつや

正直者のきこりさん
手をすべらせて大事なオノを
川に落としてしまいました

すると川から神様が
出てきてきこりに言いました
落としたのはきんのオノ？
それともこっちのぎんのオノ？

きんのオノと ぎんのオノ
どっちでもないけどどうしよう？
きんのオノと ぎんのオノ
わたしが落としたのは
使い古したボロボロのオノ

正直者のきこりさんは
きんもぎんもすべてのオノを
神様からもらいました

欲張り者のきこりさん
話をきいて早速オノを
川へ落としに行きました

すると川から神様が
出てきてきこりに言いました
落としたのはきんのオノ？
それともこっちのぎんのオノ？

きんのオノと ぎんのオノ
どっちでもないけどどうしよう？
きんのオノと ぎんのオノ
わたしが落としたのは
きんのオノと ぎんのオノ

欲張り者のきこりさんは
きんもぎんもすべてのオノを
もらえず 泣き続けました

ただただ 泣き続けました

2. 『はだかの王さま』

詞・曲：しかの てつや

裸一貫やってきた 威風堂々やってきた
あいつは誰だ？王さまだ！
どうして何も着てないんだ

悪いヤツらにだまされて
バカには見えない透明の
服を着て歩いてきた
どうかカゼをひかないで

はだかの王さまがやってくる
何もしらずにやってくる
言っちゃダメだよホントの事を

はだかの王さまがやってくる
何もしらずにやってくる
かわいそうなのはだかの王さま

裸一貫やってきた 威風堂々やってきた
あいつは誰だ？王さまだ！
やっぱり何も着てないぞ

みんなでウソを信じたら
ウソがほんとになっちゃった？！
誰にも見えない王さまの服
みんながみんな見えてるフリ

はだかの王さまがやってくる
何もしらずにやってくる
見てるこっちがはずかしいね

はだかの王さまがやってくる
何もしらずにやってくる
かわいそうなのはだかの王さま

ひとりの子どもが言いました
正直だから言いました
誰もと言えなかったそのセリフ
『どうして王さまはだかなの？』

はだかの王さまが去ってゆく
すべてを知って去ってゆく
言ってしまったホントの事を

はだかの王さまが去ってゆく
すべてを知って去ってゆく
かわいそうなのはだかの王さま
かわいそうなのはだかの王さま

3. 『みにくいアヒルの子』

詞・曲：しかの てつや

兄弟たちとは少し違う
ひとまわり大きいたまごから
生まれたほんのり灰色の
ちょっとだけ変わった あひるの子

ほんとはかわいいあひるの子
だけどみんなと違うから
みっともないってからかわれ
仲間はずれになった あひるの子

みにくいあひるの子 仲間はずれになっても
かまわない 精一杯生きるんだ
みにくいあひるの子 はばたいてゆこう
輝ける未来へ

生まれた場所を飛び出して
世界に旅立つあひるの子
どこに行ってもみにくいと
言われつつけてしまう みじめな子

みにくいあひるの子 きらわれものになっても
かまわない 精一杯生きるんだ
みにくいあひるの子 はばたいてゆこう
輝ける未来へ

ある日みにくいあひるの子は
美しい白鳥に会いました
輝く白い羽をもつ あんな鳥になれたなら

厳しい冬の寒さに耐え
一人前になったあひるの子には
輝く白い羽が生えていました

みにくいあひるの子 輝く白い羽を
広げたら 大空にとんでゆけ
みにくいあひるの子 はばたいてゆこう
輝ける未来へ 輝ける未来へ

4. 『豆の木ジャック』

詞・曲：しかの てつや

ジャックは家畜だった 大切な牛を
ただの豆と交換しました
だけどその豆から天にものぼる
豆の木が育ちました

豆の木ジャック 空へとものぼってゆくよ
豆の木ジャック こわくなんてないさ

雲の上には大きな城
ジャックのパパが住んでいた城

パパのかたきの 人食い巨人が
わが物顔で暮らしていました

豆の木ジャック 冒険に旅立つよ
豆の木ジャック 恐怖に立ち向かって

城に隠されたたくさんの宝を
ジャックは取り返しにいきました

けれど巨人に見つかったジャックは
食べられそうになりました

豆の木ジャック 巨人につかまるな
豆の木ジャック 知恵をふりしぼって

豆の木をおりるジャックを
巨人がおいかけてくる
急いで地面におりたジャックは
オノで豆の木を切り倒して
ジャックは巨人を退治したのです

豆の木ジャック 巨人をやっつけた
豆の木ジャック 幸せをつかんだよ

豆の木ジャック 勇気ある行動が
豆の木ジャック 世界をかえる

勇気をだして さあ行こう
勇気を出して 君も さあ行こう

5. 『おやゆびひめ』

詞・曲：しかの てつや

おやゆびみたいにちっちゃいよ！
とってもカワイイんだ
チューリップの花から生まれた子
おやゆびみたいにちっちゃいよ！
でもでもつよいんだ
大冒険ものりこえて行くんだ

ヒキガエルのおよめさん？
コガネムシのおよめさん？
モグラさんのおよめさん？
やっぱり花の王子のおよめさん

おやゆびみたいにちっちゃいよ！
みんなが大好きさ
やさしい歌声の女の子

メダカさんに助けられ
ネズミさんに助けられ
ツバメさんに助けられ
さいごは花の王子にあえました

おやゆびみたいにちっちゃいよ！
とってもカワイイんだ
チューリップの花から生まれた子
おやゆびみたいにちっちゃいよ！
でもでもつよいんだ
大冒険ものりこえて行くんだ
大冒険ものりこえて行くんだ



6. 『オオカミ少年』

詞・曲：しかの てつや

オオカミが来たぞ～！ オオカミが来たぞ～！
嘘つき少年うそぶいて 街の人はおどろいた
オオカミが来たぞ～！ オオカミが来たぞ～！
助けに来た街の人を 少年はバカにしていました
オオカミが来たぞ～！ オオカミが来たぞ～！
何度も少年うそぶいて まちの人をあきれがお

ある日ホントにオオカミが
少年のところにやってきた

オオカミが来たぞ～！ オオカミが来たぞ～！
嘘つき少年知らせても 誰も信じてくれません
オオカミが来たぞ～！ オオカミが来たぞ～！
嘘つき続けた少年を 誰も信じてくれません！

7. 『カチカチ山』

詞・曲：しかの てつや

カチカチ山 ×2 カチカチ山 ×2

ある日なかよし じいさんばあさん
畑仕事を してました
畑のやさいを いじわるたぬきが
ぜんぶ 食べてしまいました
さらに たぬきは やさしいばあさんに
うそをついて ケガさせて
それをきいた ウサギがたぬきを こらしめる話

それから…

カチカチ山 ×2 カチカチ鳥がいない
カチカチ山 ×2 草のたばから火がもえる
カチカチ山 ×2 ぼうぼう鳥がいない
カチカチ山 ×2 たぬきのせなかで火が燃える
あっちい！

やけどがヒリヒリ いじわるたぬきを
うさぎがたずねに いきました
とうがらし入りの みそをぬりぬり
たぬきは泣きべそ いたいいたいっ！
こんどはやけどを なおすために
さかなをとりに いきました
ウサギは木の船 たぬきはどろ船
どうなるのかしら？ もう一度…

カチカチ山 ×2 カチカチ鳥がいないてる
カチカチ山 ×2 草のたばから火がもえる
カチカチ山 ×2 ぼうぼう鳥がいないてる
カチカチ山 ×2 たぬきのせなかで火が燃える
あっちい！

どろ船はやがて とけはじめて
たぬきは 海へおちました
それをみてた ウサギはたぬきに
きびしい顔でいいました
じいさんばあさんに いじわるしたから
くるしい思いをするんだぞ！
悪いことしたら 自分に返ってくるっていう話

8. 『かぐや姫』

詞・曲：しかの てつや

竹取の おきな見つけた 光る竹
そこにいたのは かわいい少女
大切に 育て名付けた かぐや姫
とても美しい 娘になった

清らかさと 美しさに
苦しいことも 悲しいことも 忘れさせてくれた

かぐや姫 かぐや姫 みんなに愛され生きてくの
かぐや姫 ずっと側にいて お願い

たくさんの 若者達が おとずれて
妻にしたいと 言ってきました
かぐや姫 あなたに贈る 宝物
そのどれ一つ みむきもしない

月をみると 悲しくなるの
私はあの月から来た 十五夜でおわかれ

かぐや姫 かぐや姫 あなたは月へ帰ってくるの？
かぐや姫 どこにもいかないで お願い

月の光に つつまれた 天女の声にさからえず
天のはごろも まとったなら
月へとのぼっていく

かぐや姫 かぐや姫 みんなに愛され生きてくの
かぐや姫 ずっと側にいて お願い

かぐや姫 かぐや姫 あなたは月へ帰ってくるの？
かぐや姫 どこにもいかないで お願い
お願い…

9. 『アリとキリギリス』

詞・曲：しかの てつや

働き者のアリさんと なまけもののキリギリス
働くことの大切さを 教えてくれる物語

冬の食糧ためるために
遊びたくても がまんがまん

冬に困ってしまわぬように
夏の間にがんばるぞ

アリさんコツコツ働くそばで
なまけていたのはキリギリス

アリさんばかりにして 歌をうたって
遊んでばかりのキリギリス

うらやましいなあ でも大丈夫かな

楽しい時に あそばなきゃ
もったいないったら ありゃしない

冬になっても なんとかなるさ
夏の陽気に 身を任せ

アリさんコツコツ働くそばで
なまけていたのはキリギリス

アリさんばかりにして 歌をうたって
遊んでばかりのキリギリス

うらやましいだろう いっしょにうたおうよ
うらうら……

冬になって食べ物探し
見つからないのは キリギリス

夏の間に ためた食べ物で
アリさんとっても しあわせ

安心だね でも…心配だね

食べ物分けてあげたのは アリさん
感謝感激のキリギリス

来年こそは一緒に働こう
しっかり約束しました

安心だね もう大丈夫だね

安心だね もう大丈夫だね

10. 『ひきょうなコウモリ』

詞・曲：しかの てつや

昔々の大昔 鳥と獣の争いに
一羽のコウモリがいました

ある日 一羽のコウモリは
鳥が争いに勝った時
鳥の仲間と言い張って
翼を広げて見せました

どっちつかずのコウモリが
鳥の仲間といいはる
どっちつかずのコウモリが
獣の仲間と言っている
どっちつかずのコウモリが
鳥の仲間といいはる
どっちつかずのコウモリが
獣の仲間と言っている
どっちが本当なの？

昔々の大昔 鳥と獣の争いに
一羽のコウモリがいました

ある日 一羽のコウモリは
獣が争いに勝った時
獣の仲間と言い張って
毛皮と牙を見せました

どっちつかずのコウモリが
鳥の仲間といいはる
どっちつかずのコウモリが
獣の仲間と言っている
どっちつかずのコウモリが
鳥の仲間といいはる
どっちつかずのコウモリが
獣の仲間と言っている
どっちが本当なの？

争いも終わり 鳥と獣も仲直り
どっちつかずのコウモリは
結局のところ 仲間はずれにされて
今では暗い洞窟の中

どっちつかずのコウモリが
鳥の仲間といいはる
どっちつかずのコウモリが
獣の仲間と言っている
どっちつかずのコウモリが
鳥の仲間といいはる
どっちつかずのコウモリが
獣の仲間と言っている
どっちが本当なの？

どっちが本当なの？

11. 『マッチうりの少女』

詞・曲：しかの てつや

寒空の下 小さな少女がひとり
マッチをうり歩いていました

靴をなくして 裸足のまま
雪道をただただ 歩いていました

でも誰一人マッチを買ってくれる人は
いませんでした

おおみそかの夜 しあわせな夜
少女はひとり 歩き続けました

マッチを買ってくださるという
やさしい人はいませんか？
とってもやさしい 炎のひかり
あたたかい 思い出のひかり

街角では 小さな少女がひとり
歩きつかれて すわりこんでいました

かじかんだ小さな両手で
一本のマッチに 火をつけました

あたたかく光る 炎の中にみえたものは
ストーブでした

たくさんのごちそうや クリスマスツリー
少女は幸せな気持ちになりました

マッチを買ってくださるという
やさしい人はいませんか？
とってもやさしい 炎のひかり
あたたかい 思い出のひかり

流れ星が一つ 流れ落ちました
とても美しい星の軌跡
もう一本マッチに明かりを灯せば
そこには大好きな亡くなったおばあさんの姿

マッチに全部明かりを灯し
おばあさんに抱かれた少女は
そのぬくもりに包まれて
遠い 遠い あの空へ

マッチを買ってくださるという
やさしい人に出会えずに
少女の小さな亡骸は
街角に悲しみを残しました

幸せそうな 微笑みを うかべながら…

12. 『月へのかいだん』

詞・曲：しかの てつや

ある日一羽のウサギがいました
お月さまのところにいてみたいな
でも 僕のジャンプじゃ届かない

モグラがいました
お月さままで続く ながいながい階段を
つくったらいいじゃないか

モグラがほった土を集めて
ウサギは階段を作り始めました

ひとつひとつ少しずつ 月への階段作るんだ
くじけそうな時も あるけれど
そこには輝く月があるから

とってもとっても大変だけれど
ちっともちっとも辛くはありません
だって 月に行くって夢があるから

みんながいました
そんなの行けるわけじゃないじゃないか
バカにして笑いました

それでもウサギとモグラは
休むことなく 作り続けました

一步一步少しずつ 月への階段登るんだ
笑われたってへっちゃらさ 見上げれば
そこには微笑む月があるから

階段はのびて 伸び続けて
ウサギは見えなくなりました
月についたのかな？ それとも…
今となっては 誰にもわかりません

だけど月を見ていたら 大きな大きな影法師
ウサギが餅をついてる影法師
ウサギは夢をかなえました

大きな夢をかなえました